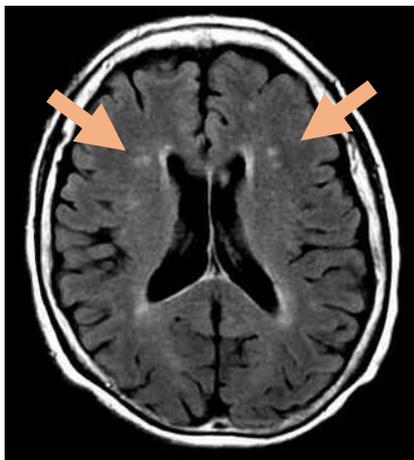


## 第9話 大脳白質病変

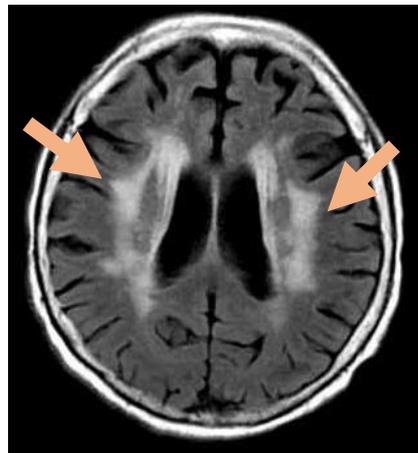
認知症や脳卒中発症の予知に関わる MRI 所見の一つとして、大脳白質病変が注目されています。白く散在する斑点(図 1 左)で、進行すると塊となって描出されます(図 1 右)。ふだん何ら問題なく仕事に従事し、日常生活を送っている方の中にも大脳白質病変を認めることが少なくありません。

脳ドックでは軽微な所見が 50%近くに、中等度の所見が 10%前後に見つかります。

### ① 大脳白質病変のMRI画像(図 1)



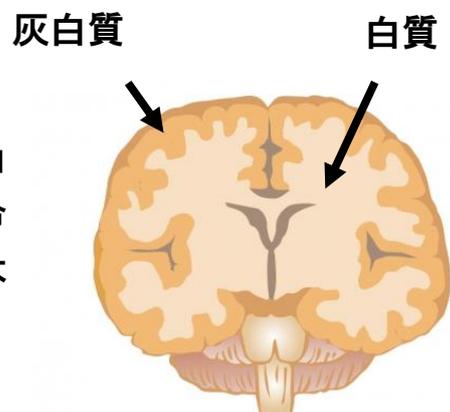
軽微な白質病変



重度な白質病変

### ② 大脳白質とは

大脳の表面は神経細胞が集まっており灰白質と呼ばれます。その奥に神経細胞からの命令を伝える神経線維が束となって走行している大脳白質があります。



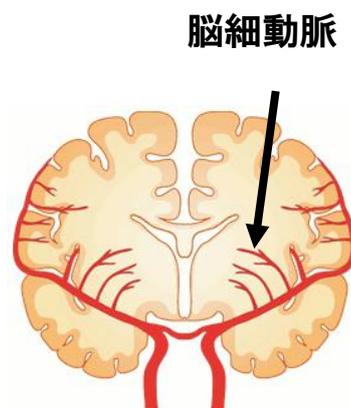
(図 2)

#### ④なぜ白質病変ができるの？

最大の危険因子は高血圧症です。

不十分な高血圧管理が長く続くと、白質に張りめぐらされた脳の細い動脈(図 3)は、動脈硬化をきたします。そのため血管の壁は弾性を失い、内腔は狭くなります。その結果、血管から水分などが漏れ出し、MRI で白い斑点として描出されます。

また、細い血管がこのように動脈硬化を起こすと、慢性的に脳の血流が低下した状態となります。



(図 3)

#### ⑤白質病変の対策は

- ・年齢とともに発見されやすく、高齢者の軽微な所見は加齢現象と考えられています。
- ・一方で、**進行した大脳白質病変は、認知症や脳卒中発症の高リスクであり、進行の防止は重要です。**

- (i) 血圧が高い人では、十分な血圧管理が最も大切です。
- (ii) 糖尿病、メタボリック症候群、慢性腎臓病、喫煙なども大脳白質病変と関連することが知られており、その対応も重要です。
- (iii) 「血液サラサラ」薬は、出血合併のリスクが高まるため、有効ではありません。

